学校番号	3015

令和４年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	世界史Ｂ	単位数	４単位	年次	３年次
使用教科書	「詳説世界史Ｂ」　（山川出版）						
副教材等	「タペストリー　十九訂版」（帝国書院） 「入試によく出る　世界史Ｂ　一問一答」（Ｚ会編集部）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

昨年度の「世界史 A」よりも教科書が重厚なものとなっている。それだけ多くの事柄についての深く広い理解が求められている。「暗記モノ」と呼ばれる世界史であるが、難解な現象のつながりを理解した時の爽快感は病みつきになることを保証する。授業を通じて「世界史のストーリー」を楽しみ、学んでほしい。

2　学習の到達目標

世界史の主要なできごとの歴史的意義について考え、それらのできごとの意味を結びつけて「世界史の特性」を理解し、多様な思考ができるようになる。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	歴史的・地理的事象に対する関心と課題意識を高め，意欲的に追究するとともに，国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとする。	歴史的・地理的事象から課題を見いだし，我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色を世界的視野に立って多面的・多角的に考察し，国際社会の変化を踏まえ公正に判断して，その過程や結果を適切に表現している。	歴史的・地理的事象に関する諸資料を収集し，有用な情報を適切に選択して，効果的に活用している。	我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての基本的な事柄を理解し，その知識を身に付けている。
評価方法	・定期考査 ・教えあい活動 ・発問評価 ・授業態度 これらから総合的に判断して評価を行う。	・定期考査 ・教えあい活動 ・発問評価 ・授業態度 これらから総合的に判断して評価を行う。	・定期考査 ・教えあい活動 ・発問評価 ・授業態度 これらから総合的に判断して評価を行う。	・定期考査 ・教えあい活動 ・発問評価 ・授業態度 これらから総合的に判断して評価を行う。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
一学期	近世ヨーロッパ世界の展開	ヨーロッパ諸国の抗争と主権国家体制の形成	○			○	a:ヨーロッパ諸国がたがいに独立した主権国家として競合しながら国際秩序を形成していった過程を,関心を持って学習しようとしている。 d:近代国家の原型となった主権国家体制の特色と,体制の形成に向かうヨーロッパ諸国の内乱や戦争の動向を理解する。	・定期考査 教え合い活動や発表への取組 ・発問評価 ・授業態度
		重商主義と啓蒙専制主義	○			○	a:イギリス革命やフランスを中心とした国家間の抗争,東ヨーロッパ諸国の台頭を,関心を持って学習しようとしている。 d:17～18世紀におけるヨーロッパ主権国家諸国の動向を,重商主義と啓蒙専制主義を柱として理解する。	
		ヨヨーロッパ諸国の海外進出	○			○	a:アジア市場とアメリカの植民地をめぐるヨーロッパ諸国の抗争の過程と,三角貿易のもたらした国際的な社会・経済の変化について,関心を持って学習しようとしている。 d:ヨーロッパ諸国の植民地争奪と大西洋世界の三角貿易のもたらした国際的枠組みを理解する。	
		1.　17～18 世紀のヨーロッパの文化と社会	○			○	a:科学革命と啓蒙思想を背景とするヨーロッパの文芸思潮について,関心を持って学習しようとしている。 d:17～18世紀におけるヨーロッパ文化の特色と,それを生み出した社会状況を理解する。	
		1.　産業革命	○			○	a:産業革命の世界史的背景,技術革新や交通革命の進展と波及について,関心を持って学習しようとしている。 d:イギリス産業革命の背景と展開,産業資本主義体制の確立とその影響について理解する。	・定期考査 教え合い活動や発表への取組 ・発問評価 ・授業態度
		2.　アメリカ独立革命	○			○	a:共和政の大国を確立したアメリカ独立と,その憲法の内容や思想的背景を関心を持って学習しようとしている。 d:アメリカ独立革命の経過と,独立が近代民主政治に与えた影響を理解する。	
	近世ヨーロ	1.　フランス革命とナポレオン	○			○	d:アメリカ独立革命とフランス革命が近代民主政治に与えた影響を理解する。 a:フランス革命の経済的,思想的背景に	

							ついて関心を持って学習しようとしている。	
		2. ウィーン体制の成立	○			○	a:ウィーン体制の特色とその崩壊過程，社会主義思想の成立と普及について，関心を持って学習しようとしている。 d:ウィーン体制の成立と，その体制下に広がったヨーロッパ諸国の自由主義とナショナリズムの運動を理解する。	
		3. ヨーロッパの再編と新統一国家の誕生	○			○	a:ロシアの南下政策とそれに伴うヨーロッパ列強の対立，イタリア・ドイツの統一の背景や過程について，関心を持って学習しようとしている。 d:クリミア戦争以後の国際秩序の動揺と再編，イタリア・ドイツにおける国民国家の形成過程，ロシア・オーストリアの皇帝主導の近代化を理解する。	
	近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立・第12章 アジア諸地域の動揺帝国主義とア	1. 南北アメリカの発展	○			○	a:アメリカ合衆国の西部への領土拡大が，独自のものの考え方や行動様式をはぐくんでいったことを学習しようとしている。 d:ラテンアメリカの独立，アメリカ合衆国の領土拡張と南北戦争以後の発展を理解する。	・定期考査 教え合い活動や発表への取組 ・発問評価 ・授業態度
		2. 19世紀の欧米の文化	○		○	○	a:19世紀欧米の文芸思潮の変化，近代諸科学や技術の発展の影響を意欲的に追究しようとしている。 c：当時の文学作品を読解し、世相と歴史的事象を読み取らせる。 d:19世紀の欧米文化の特徴とその成立の背景を理解する。	
		3. オスマン帝国支配の動揺と西アジア地域の変容	○			○	a:世界市場の形成を背景にしたヨーロッパ勢力の干渉によるオスマン帝国と西アジア地域の変容について，関心を持って学習しようとしている. d:西アジアにおけるオスマン帝国支配の動揺と改革，アラブ諸民族の覚醒，イラン･アフガニスタンの動向を理解する。	
二学期	第12章 アジア諸地域の動揺帝国主義とア	1. 南アジア・東南アジアの植民地化	○			○	a:ムガル帝国の解体と東南アジアの植民地化について，関心を持って学習しようとしている。 d:インドの植民地化とその社会の変貌，東南アジア諸国の植民地化の過程を理解する。	
		2. 東アジアの激動	○			○	a:アヘン・アロー両戦争，太平天国の動乱で清朝の支配が大きく動揺し，近代化への取り組みが始まったことを，関心を持って学習しようとしている。 d:ヨーロッパ諸国の干渉による清朝の動揺と近代化改革，日本の開国と台頭による東アジア国際秩序の再編を理解する。	

		3. 帝国主義と列強の展開	○	○		○	a:欧米列強では軍事力の強化がはかられる一方で労働運動が高まりを見せるなど,国内の緊張が高まっていったことを関心を持って学習しようとしている。 b:19世紀後半から欧米で進展した第２次産業革命と,各国の帝国主義の動きを関連づけて考察し，文章にまとめる。 d:帝国主義の特質と,帝国主義時代における欧米列強諸国の国家･社会の変化を理解する。	・定期考査 教え合い活動や発表への取組 ・発問評価 ・授業態度
		4. 世界分割と列強対立	○	○		○	a:欧米列強が植民地獲得や勢力圏拡大の競争を繰り広げた結果,列強の二極分化が進み,第一次世界大戦につながる危機が高まっていったことを関心を持って学習しようとしている。 b:経済力と軍事力を背景とする欧米列強の支配による世界の一体化が,世界各地の社会の変容に与えた影響について考察し，文章にまとめる。 d:帝国主義時代の欧米列強による世界各地の分割や植民地化をめぐる競合と,従属させられた地域社会の抵抗と変容を理解する。	
	第12章 アジア諸地域の動揺二つの世界大戦帝国主義とアジアの民族運動	1. アジア諸国の改革と民族運動	○	○		○	a:帝国主義列強の侵略にさらされたアジア諸国における民族運動の形成と,このような世界情勢の中で日本が列強としてアジアへの勢力拡張に加わったことを,関心を持って学習しようとしている。 b:帝国主義列強の植民地支配を受けたアジア諸地域で民族意識が覚醒し,解放･独立をめざすナショナリズムの運動が展開されていったことを,現在の国際状況や問題と関連づけて考察し,文章にまとめる。 d:欧米諸国の支配を受けたアジア諸国の改革と民族運動の形成を理解する。	
		2. 第一次世界大戦とロシア革命	○	○		○	a:第一次世界大戦勃発の経緯，戦時外交と総力戦の性格について,関心を持って学習しようとしている。 b:第一次世界大戦の原因や性格について,これまでの戦争との違いを多角的に考察し，文章にまとめる。 b:社会主義国家の誕生という，ロシア革命の世界史的な意義と影響について，多角的に考察し，文章にまとめる。 d:第一次世界大戦とロシア革命が国際秩序に大きな変化をもたらし，20世紀の変動の基点となったことを理解する。	・定期考査 教え合い活動や発表への取組 ・発問評価 ・授業態度
		3. ヴェルサイユ体制下の欧米	○	○		○	a:戦間期の国際協調と平和への取り組みが実を結ばなかった理由について,	

		諸国					関心を持って学習しようとしている。 b:ヴェルサイユ・ワシントン両体制のもたらした緊張関係や矛盾を多角的に考察し・追究し，文章にまとめる。 d:国際協調を基調としたヴェルサイユ体制下の欧米諸国の動向を理解する。	
	帝国主義とアジアの民族運動二つの世界大戦冷戦と	1. アジア・アフリカ地域の民族運動	○			○	a:アジア諸民族の民族運動が大衆的な基盤を持ち，世界史の新しい潮流をつくり出したことについて，関心を持って学習しようとしている。 d:中国や東南アジア諸国，インド，トルコや西アジア諸国，アフリカの民族運動の展開を理解する。	
		2. 世界恐慌とファシズム諸国の侵略	○			○	a:イタリア・ドイツ・日本のファシズムの特徴と勢力拡張の過程について，関心を持って学習しようとしている。 d:世界恐慌以降の欧米諸国の動向や東アジアの状況から，国際的な緊張が高まる時代を理解する。	
		3. 第二次世界大戦				○	d:第二次世界大戦に至る過程と戦争規模の拡大，米ソの国際的地位の高まりを理解する。	・定期考査 教え合い活動や発表への取組 ・発問評価 ・授業態度
	二つの世界大戦冷戦と第三世界の独立現在の世界	1. 戦後世界秩序の形成とアジア諸地域の独立	○	○		○	a:米・ソそれぞれの経済協力と軍事ブロックの形成による冷戦構造について，関心を持って学習しようとしている。 a:アジア諸地域の独立と建国時の困難さに関して，関心を持って学習しようとしている。 b:親ソ政権樹立による東欧諸国の社会主義化とアメリカ合衆国の経済援助や「対ソ封じ込め」政策を比較しながら考察し，文章にまとめる。 b:アジア諸地域で推進された民族運動と干渉国の関係を多角的に考察している。 d:第二次世界大戦後，米・ソを中心とした冷戦体制が成立し，東西両陣営に世界が分裂したことを理解する。 d:中華人民共和国の成立やアジア諸地域の独立の過程を理解する。	
		2. 米ソ冷戦の激化と西欧・日本の経済復興	○	○		○	a:朝鮮戦争後，核兵器開発競争や平和共存政策といった国際的な緊張・融和がくり返されたことについて，関心を持って学習しようとしている。 b:西欧や日本の経済的な復興や高度成長を，戦後の国際政治に与えた影響と関連づけて考察し，文章にまとめる d:朝鮮戦争などによる米ソ冷戦の激化から，日本・西欧の経済復興や「雪どけ」の始まりによって，国際政治や経済が多極化に向かったことを理解する。	
		3. 第三世界の台	○	○		○	a:ベトナム戦争やチェコスロヴァキア	・定期考

		頭と米・ソの歩み寄り					軍事介入など，米・ソ両大国の動揺について，関心を持って学習しようとしている。 b:アジア・アフリカ新興独立諸国による第三世界の台頭とキューバ危機以降の米・ソの政策を，冷戦の緩和と関連づけて考察し，文章にまとめる。 d:戦後の20年間に段階的に独立を達成したアジア・アフリカ諸国が第三勢力として躍進し，発言力を強めたことを理解する。 d:米・ソの両大国の動揺と国際的な影響力の減退を理解する。	査 教え合い活動や発表への取組 ・発問評価 ・授業態度
三学期		4. 石油危機と世界経済の再編	○	○		○	a:オイル＝ショック以降の先進国の社会変容や途上国の工業化について，関心を持って学習しようとしている。 b:冷戦の終結をゴルバチョフによるソ連の改革と関連づけて考察し，文章にまとめる。 d:ドル＝ショック，オイル＝ショック以降の国際経済の再編，冷戦の終結への流れを理解する。	
		5. 社会主義世界の変容とグローバリゼーションの進展				○	d:東欧社会主義圏の消滅とソ連邦の解体，1990年代の情報技術革命とグローバル経済の進展を理解する。	
	現在の世界	1. 途上国の民主化と独裁政権の動揺	○			○	a:ラテンアメリカやアジアの途上国における強権支配の後退と民主化の進展について，関心を持って学習しようとしている。 d:途上国の民主化の進展と，アジア社会主義国家の変容を理解する。	
		2. 地域紛争の激化と深刻化する貧困	○			○	a:新たな地域紛争の頻発，経済格差や深刻化する貧困問題など，現代の諸地域世界の情勢について関心を持って学習しようとしている。 d:世界で多発する地域紛争と同時多発テロ後の戦争，紛争解決や軍縮の試みを理解する。	・定期考査 ・課題レポートや発表 ・発問評価 ・授業態度
		3. 現代文明の諸特徴			○	○	c:教科書に掲載されている地図や写真などの資料を活用することができる d:科学技術の発達と現代文明の抱える危機，現代思想や文化の特徴について理解する。	・定期考査 ・課題レポートや発表 ・発問評価 ・授業態度

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現

c:資料活用の技能　　d:知識・理解

（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。